

建設産業委員会おでかけ委員会会議録

平成 26 年 9 月 19 日 (木)

場所 春扇楼末廣

午後 7 時 00 分 開会

1. 委員長挨拶

○竹内元章氏

【挨拶】

○浅井信義氏

今日はわざわざ私どもの家へ来ていただきまして、ありがとうございます。こんな古い家ですけれども何とか私も残したいと思ひまして、正直いって自分の給料を入れているような感じで、いろいろ修理したりしていますけれど、どうやって残したらいいか、私自身では分かりませんもので、皆さんのご意見を聞きながら何とか残していきたいと思ひていますので、よろしくお祈いします。

2. 半田市議会建設産業委員会視察の報告

○榊原伸行委員長

【資料 行政視察報告書に基づき説明】

3. まちづくり作業部会案の提案と協議

○竹内元章氏

【資料 アンケート (B 4) 両面、パワーポイント に基づき説明】

今、このようなことを作業部会で話し合っまいました。前にも資料として出しています私からの思ひ、6つ。これ以外に子育てとか教育、高齢者問題がありますが、とりあえずすぐやれることということで、和のイメージで街並み形成、街の資源・文化的背景を活かした街づくり、来街者の満足度を高めることをやっていこうと作業部会で考えまして、提案させていただきます。これに関しまして、みなさんから意見を頂戴したいと思ひます。よろしくお祈いします。

○中川健一副委員長

私は春扇楼末廣だけでなく、日の出食堂、永楽さんとか、この地域には他にもたくさん守っていかないといけない建築物があると思ひますが、その辺についてはどのようにお考えですか。

○竹内元章氏

たまたま今回表に大きく出させていただいたのは末廣さんですが、まずはそこをとっかかりにして、一つ事業を進めていきながら、先ほど中川さんが言っくれたように、この街には古い建物、趣のある建物がまだまだたくさん残っています。そういったものを活用しながら進めていきたいと考えております。

今日、たまたま日の出食堂の木村さんと会うことができ、昔の話、使わせてくれないかと言う話をしに行きましたが、30分くらいの立ち話になりました。昔の街はこうだった、とか日の出食堂にも昔3階があっ、宴会をよくやっ、そういう話になり、半田という街はすごい街なんだぞということ再認識させられました。建物自体も大変すばらしい。これ

も放っておくとだんだん朽ち果てて最終的には壊さなければならなくなりますので、できるだけ早いうちに実行委員会、新しい組織など洗い出しまして、活用方法、支援策を考えてぜひ残していきたい。数えだしたらきりがありませんが、古い建物たくさんありますので、そういうものはできれば残したいですし、住んでいる方も、例えば木村さんにしても、ぜひ残してほしいとっておりました。ただし、今1階に住んでいますので食堂を貸すのは勘弁して欲しいと言われました。それも例えば木村さん達に住む場所を提供して、そこを借りて改装してテナントして貸出し、その売上げを木村さん達にバックして生活資金にさせていただくというのも一つの方策かもしれません。いろいろな方策をベストミックスして今後活用できればと思います。一度絶えてしまったらそこで歴史が終わってしまうと思いますので、残せるものはぜひ残したいと思います。

○小野田商工観光課長

まちづくりのコンセプトで「赤ちゃんからお年寄りまでが生きがいを持って笑顔で暮らせるまち」とありますが、今の具体的な事例の中で生きがいの部分について最初の頃コミュニティの話が出ていたと思うのですが記載がないかな、と思いました。

もう2点確認させてください。春扇楼末廣の民間事業者が物件を取得し、とありますが、実際の持ち主というところはどうなっているのですか。

○浅井信義氏

国が持っています。はっきりとはわかりませんが、戦時中に所謂中島飛行場が、そこに将校が来るということで、強制的に買い上げられています。そのままです。だから、私以外が借りることはできません。私が辞めれば壊します。取得と言うと所有権を払い下げることになります。国としても面倒だと思います。書類が一切国にはないので、この前調べていたら、中島飛行場から電話を譲り受けた書類が出てきました。

○新美保博委員

払下げはできるのですか。また、いくらくらいでできるのですか。

○浅井信義氏

この建物が100万円、地代が4000万円くらいです。70年近く家賃を払っています。国は修理を一切してくれません。例が無いので国も困っていると思います。

戦後どのように変わっていったのかわかりませんが、当時は望洲楼さんもそうでした。

○小野田商工観光課長

最後の推進上の課題と推進体制のところ、まちづくり機関と広く市民を巻き込んでいる感じで書いていますが、その下のTMHを軸にというところが合っていないような気がしました。

○竹内元章氏

まず1つ目、赤ちゃんからお年寄りまで6つの提言ということで、今回は第1章だと思っていただけるといいと思います。第2章、第3章において子育て、高齢者問題、生きがいづくり、コミュニティづくりを考えていきたいと思っています。まず、街の中の建物などを残しながら、そのランドマークになるものを支えていく人たちが生きがいづくり、にぎわいづくり

に参加してくれると思います。

2番目は浅井さんの話でいいと思います。

最後の推進機関ですね。あるものは使えばいいと思いますので、例えばTMHを軸にやってもいいのかなと思います。今後春扇楼末廣を軸にがんばってやっていこうという時に、例えば末廣クラブではないですが、支える仲間たち、支援者がでてきてくれればそういった方たちに任せながら、ただ、TMHが調整役になることもできます。いままでTMHが培ってきた知名度などもあると思いますので、そういうものを活用して使っていければと思いたいという表現としました。

○新美保博委員

議題3になりますが、9月定例会の最終日に建設産業委員会として報告をしたいと思い、このアンケートをできれば早くやりたいという考えもありますので、4を先にやっていただいて、今言われた通り第1弾だと思います。当面30日までにやらなければいけないことを進めた方がいいと思います。

○榊原市民経済部長

作業部会の提案ですが、実行委員会の提案とありますが、これは作業部会と読み取ればいいのですか。

○竹内元章氏

この会で承認していただくと実行委員会からの提案と読み替えていただくということでもいいと思います。

○榊原市民経済部長

和のイメージと和の香りとありますが、和が両方にあるものですから、和のイメージに組み入れた方がわかりやすいと思いました。

①の和のイメージの◎3つ目、生活上の利便性を向上させ定住者を増やす、と言うコメントがありますが、市が考えていた利便性はJR高架によりこの街が一体化するということや、反対の人もいますが、基本的には都市計画決定をしようとしていて、この事業が進んでいく。そういう便利な街を目指そうと市は計画をしています。後は駅前ロータリーや歩道のある道路などをやることで生活上の利便性の向上を目指そうという視点もあると思うのですが、そういうのも入れた方がいいのかなと思いました。

安全な街というところで、バリアフリー化や、歩道の設置をすることによって進むというコメントがあるといいと思います。

推進体制のところで、半田市からの十分な補助金及び支援が必要とあり、気持ちとしては良くわかりますが、半田市からの支援が必要であるというくらいの表現がいいと思います。また、TMHの今後を検討している中で、実行委員会として、市としても認めたこととなりますので、このあたりの表現は配慮が必要だと思いますので、まちづくりを推進する組織を軸とした方がいいと思いました。

○竹内元章氏

何かまずいことがありますか。

私ども民間の業者、商業者が考えてやってきた話で、これが使えるのではないかという意

見があり、出来上がったものです。

○榊原市民経済部長

実行委員会となると市の職員も名を連ねていますので、作業部会の提案という形で出ていくのは問題ないと思います。

○竹内元章氏

検討している段階でまだ決まっていないので、問題ないと思います。

議員のみなさんどうですか。

○新美保博委員

今の話で、和の話。①と②に和があるので、1つにした方が良ければ1つにした方がいいと思います。

○竹内元章氏

①は街並み形成で和のイメージを言っています。②は実際にあるものを総称して和としています。例えば春扇楼末廣、日の出食堂にしても、そういったものの意味合いとして和のイメージを意識して作っていくことはできないかと考えて、2つに分けて意見がでてきましたが、もし、分かりづらいということであれば一つにしてしまうということもありますが、時間がかかるということもありますが。

○榊原市民経済部長

あえて春扇楼末廣を強調したかったということだと思いましたが、逆にこの形でも問題ないと思いますが、ちょっと同じような表現が続いたので気になりました。

○新美保博委員

かたや和（クラシック）の香りとし、かたや和の香り（Japanese Taste）と書くから、香りが2種類あるのかと思ってしまう。

○竹内元章氏

例えば和の香りだけにしてクラシックとか、Japanese Tasteをとってしまうのは簡単に直ります。

○新美保博委員

また、和の香りといっても、それにだれがどういうイメージを持とうが勝手に思ってくれればいい。

○竹内元章氏

では和の香りということで表現を統一させていただきます。

○榊原市民経済部長

竹内さんともお話しをした中で、思いやり隊とか、高齢者が子どもに昔の遊びをする会などができたらいいねと、盛り上がったと思います。そういうことは、今すぐにもでも取り掛かれるようなことのような気がしますので、ぜひ取り組んでもらえたらと思います。

○竹内元章氏

私もPTA、子育てとやってきましたので、それは絶対はずせないと思います。ただ、今までこの街ででてきた課題がこの部分で、どちらかというところハード的な部分になりますので、ソフト的な部分もまちづくり実行委員会で考えて、「子育てするならJR半田駅前」と

言ってもらえるまちを目指します。あくまで第1章ということで。

おそらくアンケートも実施すればいろんな問題が住民の方から出てくるかもしれません。それを汲み取ってまちづくりをしていくのが大前提だと思います。それを織り込んで、第2章、第3章とやっていければと思います。

○柴田哲治氏

作業部会の発表云々とありましたが、私の理解では作業部会は勝手に動いていたのではなく、実行委員会の会議録を元に絵に落とししたり、地図に落とししたりする作業をしているのであって、母体の発言は実行委員会。作業部会がアイデアを出しているのではなく、実行委員会で出てきたものを、地図の中ではどうだろうか、何がいるだろうかとその後作業部会をしていると思っていました。が、一部の発言では作業部会の文言なのか、実行委員会の文言なのかと言うことで、乖離した内容という風ですがベースは一緒だと思います。何か釈然としません。

○小野田商工観光課長

新川通りの柳の植栽と水路の話ですが、高架すると道が抜ける予定で、地域の方がこれを望んでいるという形ですか。

○竹内元章氏

今からアンケートをとりますので、とりあえずこういうアイデアがあるよというものです。そういった和の香りがあってもいいのではないかという作業部会の提案です。ただ、実際に道路が抜けるようであれば、物理的に不可能な話かもしれませんので、そこはおいおい考えていけばいいと思います。ただ、昔はこういうイメージでしたよね、という部分を心にもって、コミュニティづくりをしていきたいと思います。

○榊原市民経済部長

そこは私2年前に市街地整備監だった時に、例えば新川通りに昔の川を復活させたいというようなみなさんの思いの街を提案していただければいいという話をしましたよね。あの時に、まちづくり協会から、それもいいけど現実生活することを考えるとやめてほしい、という意見が多かったのです。

○新美保博委員

今からアンケートをとろうという時に、2年前の話はしなくていいと思います。

○竹内元章氏

今ちょうど一歩を踏み出して街のみなさんへボールを投げて、今度それがどう帰ってくるかですよ。

○新美保博委員

聞いていると、完璧なものを投げかけないと、投げかけてはいけないように聞こえる。不備があってもいいではないか。やってみなければわからない。

○浅井信義氏

和が2つありますよね。私、初めて参加しますので、上の和は調和の和かと思いました。賑わいの部分は調和がとれているイメージ。なので、字を変えるなどして調和の和としてクラシックで調和できるイメージとしてもいいのではないかと思いました。

○加藤まり氏

今、浅井さんが言ったことに、思いが共通しますが、先ほどからコミュニティなど出ていますが、それはやはりこの中の軸に入れるべきだと思います。「赤ちゃんからお年寄りまで笑顔で生きがいを持って暮らせるまち」としても全然響かないです。

第1章というのはわかりますが、その1章にこれは大事なことだと思います。箱ものは所詮箱ものなんです。人が大事なんです。ということをお私はずっと言い続けていますが、全く採用されていないなと思いました。

○竹内元章氏

ではもう1回最初からやり直しますか。それはできませんので。第2章、第3章でやらせてもらえないでしょうか。

まず、とっかかりの部分であって、実際に先ほどみなさんから言われています部分を全く忘れていた訳ではありません。私の芯になる部分でもありますので、それは絶対やるよということを明言していますので。

○加藤まり氏

であれば、少しそれが伝わるような表現というか、先ほど浅井さんが言われたようなイメージが伝わるように入れてもいいのではないですか。

○中川健一副委員長

具体的にここをこういう風に変えたらいいというのはありませんか。

○岩田玲子委員

真ん中に丸囲みで親しみやすいと入れてはどうでしょうか。

○竹内元章氏

私の言った6つの課題の3つが抜けているということですよ。この6つの課題を進めていきますよとして、まずはこれを考えています。次にこれを考えていますという文言を入れてはどうですか。絵の横あたりにそれを入れてはどうでしょうか。で、その内容を考えろということ、皆さんの合意がありますので、まず文字だけ最初にみなさんに発表させていただいた6つの考えを入れさせていただくという風でどうでしょうか。

○中川健一副委員長

具体的にこれと言っていた方が僕は良いと思います。先ほどの岩田さんの意見のように、ここにこれと入れてくれと。

○竹内元章氏

先ほどの6つ。子育て、来街者対応、教育、高齢者問題、空き地・空き店舗の活用、街並み形成。この6つを最初にみなさんにお話しさせていただいたと思いますので、今回はこれ。次がまだあるよとしたらばどうでしょう。

○新美保博委員

アンケートにはありますよね。

○竹内元章氏

アンケートには書いてあります。区民の方はだいたいこれでこういうことを考えているんだなということがわかってもらえると思います。

○加藤まり氏

これは、ここにすんでいる人に渡すんですよね。ということは、このアンケートに書いてもらうことがとても重要ですよ。ということはやはり街の人がアンケートを書こうという気持ちにならないといけないと思います。

○中川健一副委員長

僕らでは感覚がわからないということもありますので、ここをこういう風に直してもらいたいと言ってもらえると助かるのですが。

○京才泰直氏

このアンケートは記述式ですよ。意見を求めることを考えたアンケートだと思います。この素案について基本的に賛同できるのか、概ね賛同できるのか、やや反対なのか、全面的に反対なのかという意見はとらないということですか。

○竹内元章氏

それも意見に書いてもらえればと思います。フリートークのスペースもありますので、いろんなことを言ってもらえればと思います。

○京才泰直氏

記述式のアンケートは書きにくいので、なかなか返ってこない。○を打つアンケートの方が返ってくると思います。

○中川健一副委員長

実はこのアンケートを作ったのは私ですので、ちょっと説明をさせていただくと、あまりこちらからバイアスをかけたような項目ではなく、なるべく自由に書いていただいたほうが客観的でないかなと思いました。もし、書くことが出来なければそれはしょうがないことなので、例えばその中で○×の項目をつくとどうしても偏った意見になってしまいますので、そういう意味で自由記述を増やしました。そういうのがこの考え方です。

○内田哲也氏

例えば、アンケートに箇条書きで建物の外観をルール化することをどう思いますか、と聞いた方が答えやすいと思います。飲み屋横丁を設置することをどう思いますかなど。

○中川健一副委員長

その意見は良くわかりますけれども、逆に、これは項目だけで20項目ほどあります。なかなかそれを全部1個1個拾い出してやるのも難しいので、自由に書いてもらえばその人なりの意見、感覚が入りますので、それをがんばって読み取るの方がいいかなと思います、自由度の高い方にしたということです。

○新美保博委員

アンケートをとりやすいということならばそっちの方がいいのではないかな。例えば200件配って、1行も書いてもらえなければそれでアンケートとなるのか、ということになる。例えば選択肢があれば集計して方向性が見えてくるのであれば、そっちでやればいいと思う。そこをみんなで決めて、今回はこれでやろうとすればいいのではないかな。

時間的にない、というのであれば、9月議会のことはどのようにでも対応できるのだから無理しなくていい。

○中川健一副委員長

基本的にアンケートにはいろんな方法があることを私も承知しています。後で説明しますが、議員とみなさんとで、アンケートお願いしますと全戸を回る訳ですが、その時に、ご質問もいただければ、説明しながら、趣旨のお話をするのでかなりフォローができると思います。

○新美保博委員

訪問した時に、思いが伝えられる人と伝えられない人、温度差などが出てくるから、相手の受け答えによっても変わってくるだろうし、それよりも、今、文字として書いてくれないよりも書いてもらった方がいいのではないかという意見があるのなら、方向転換をすべきだと思うのだけれども。

○中川健一副委員長

逆に過去をみると、知多半田駅前の区画整理、J R 武豊線の高架化するときのアンケートを実施していますが、最初のアンケートの回収率は20パーセントもなかった訳です。その後、市の職員も学習して、全戸自分たちで回って回収すると増えてくるわけです。基本的にはきちんと回って説明して、お願いしてということ。

○新美保博委員

今話しているのはアンケートの取り方で、みんなで配って回収することと中身がどういうことかは違う。

○中川健一副委員長

○×のアンケートは僕はやってもしょうがないと思います。例えばこのプランに賛成するか反対するかみたいなわかりやすいことだったらできるかもしれませんが、クラシックな街づくりをしたいですか。したくないですか。と聞くことを聞いてもしょうがないと思いますので、こういうまちを作りたいけれどもどう思いますか、と自由に書いてもらう方がいいのではと思います。書くかどうかはお願いするしかありません。○×でも書かない人は書かないと思いますし。頼まないとどうせやっただけませんで。

○新美保博委員

配って頼むことはそれでいい。どんなアンケートでも200件みんなで配り、回収しようでいいと思う。中身をどうするかというのは今やらなければいけない。アンケートの最後に自由記述欄を設けるのもいいのではないか。

○竹内元章氏

例えば6つのうちどれが一番大事か○をうってもら。それについて、何か書いてもらう。そういうとり方はどうでしょう。設問を作って1から5としてそう思う、思わない、どちらとも言えない、というのはなかなかちゃんとした答えは出てこないと思いますが、この中で何が大事だと思いますか、それについて意見を書いてください。の方が書きやすいと思います。まちづくりのことは良くわからないけれども子育てだったら書きたいという人もいます。

○加藤まり氏

一つ大事なことを書くと、他のものも書くようになる。例を挙げるのもいいと思う。

○中川健一副委員長

アンケートは専門的な話で、10項目作るという時に、バイアスがかからずに中立的にどのような項目をつくるかということは、大学院で勉強するような内容です。それをこの中でできるかというとはっきり言って無理です。ですので、アンケートは少しおいといてもらって、3からやったらどうでしょうか。

○新美保博委員

今まで1、2、3とやってきたよね。4、5、6をやると、また◎がでてきますよね。例えばそれを1つとして、私たちは6項目、6つのテーマをやりましたと、そこにはルール化するとか、電線地中化するなどとあり、それについてみなさんどうですかというアンケートにして、興味のある人は6つすべて書いてもらえばいい。書くスペースを作るだけだから。興味のある分野でそこだけ書きたいという人がいればそれでもいいとしたらどうか。

○中川健一副委員長

今回のアンケートは、今まで作業部会と実行委員会で議論してきたことを提案するものです。残念ながらまだ、子育てとか、高齢者の問題。

○新美保博委員

1、2、3では足りないから4、5、6も入れなくてはいけないという意見があるから、そうでなくてこれでいいということはまだ論破できていないでしょう。

○中川健一副委員長

そこをお話しさせていただきますが、もしもその観点でやるのなら、我々で子育てや高齢者対応、教育のことを議論して、自分たちの案を出したうえで聞かないと、自分たちの考えもないのにみなさんどうしましょうかということ聞いても、マーケティングとしてはやる意味はあるかもしれませんが、やはりきちっと考えてやったほうが僕は良いと思います。

○加藤まり氏

でも、私たちがいくら議論しても何を求めているかわからないじゃないですか。だから何を求めているかをまず聞いて、それを元に議論した方がいいと思います。ここで議論しても、若いママたちが何を求めているかわからないと思います。

○中川健一副委員長

申し訳ないですが、そういう話をするなら、もう少し早く行ってもらえればと思います。2、3か月前に言っていただければそれも吝かではなかったのですが。

○竹内元章氏

では、アンケートはやりましょう。ただ、アンケートの聞き方として、6項目を書かせていただいて、こういうことを実行委員会で考えています。その中にこういう問題があります。これについて1項目ずつ軽く○×にして、その中で一番あなたが重要に思う項目はなんですか、と書いてもらおう。それについては書いてもらえらると思います。もっとこうしてほしい、道路をきれいにしてほしい、他にも子育てなど1、2、3に対する答えと次回の4、5、6の考えのベースにもなってくるかもしれませんので、両方ともとってもらったらどうですか。

○中川健一副委員長

地元の人がそれでやりたいのなら、ぜひやっていただいて構わないですけれども、この作

業は長い時間かけてやっていますので、地元の方で決められたらぼくはそれでいいと思います。やはり地域のみなさんがやりたいようにやるのが一番いいと思います。ただ、そうするとまた戻らないといけないので、それは大変だなと思いますが。

○柴田哲治氏

アンケートで、6項目書けばいいと思いますが、イエスカノーか、点数化すると、それを書いた人は世論調査ではないですが、円グラフか何かで比率を公表して欲しいと。あるいは10人から帰ってきて10人が全員×だったら、今までやってきたことはなんだったんだろうかと。推進しようという前提で意見があれば、少数意見でも耳を傾ける。例えば子育ての意見があれば、その意見の出所がわかれば訪ねて、掘り下げてもらうということを今後やっていくことがまちづくりだと思います。新聞社の世論調査をしようとしている訳では無いと思いますので、たくさんの意見がでてくるのに対し、項目がばらばらではいけないので、6項目はだすとして、3つは私たちのたたき台のようなものがまとまっているので、それについてご意見を拝聴したいというスタンスで意見がでてくる。数値化できなくてもノーの意見が多かったら、軌道修正しようよと。イエス・ノーとか5段階でやると結果の公表を求められたり、過半数を割ったら引き下げるのかといったことが踊ってしまう気がします。聞く耳をもっているよと。それで文章を書いてくれませんかね。とした方が、イエスノーはまずいと思います。

○新美保博委員

結果としてノーが多かったらやれないですよ。地元の過半数がダメだよと言われてたら、やれないよね。

○柴田哲治氏

例えば水路の話であれば具体的な資金計画とか、景観パースを見せて個別にやると思います。どこかで朝市やろうかと言う話になって、実験的に場所が借りられればやってみましょうとできることと、住民の人の賛成がなければできないことと項目によって賛同を得るとか、新川通りの水路とか、生活に密着していて困る人もあるでしょうから、十分な根回し、説明が必要でしょうけれども、そうでないようなイベント、飲み屋などは実験的にできることもあると思います。その時に意見を聞いて、飲み屋だったら清潔とか騒音に配慮してほしい、とかそういうことを汲み取るべきであって、過半数をとらなければまちづくりができないということはすべてではないと思う。

アンケートに限って言えば数値化すると誤解されるようなこともある。

○竹内元章氏

逆に言えば、項目だけ出しておいてフリーに書いてもらった方がまだいいということですかね。

例えば今アンケートは3つの項目を中心に書いてありますが、実行委員会では他にもこういうことを考えていますと、まず6つをうたって、今回は3つを考えてこれを作りましたと。後の3つも今後考えていきますので、ご意見があれば書いてくださいとしておけば、書きたいことがあれば書いてくれる気がします。まちづくりは分からなくても、イベントはやってみたいと思っている。子育てをしていく上でこういう支援がほしいと思ってる、など気にな

る人はどんどん書いてくれると思います。今回6つはうたいましょう。

○加藤まり氏

これ、なぜまちづくりをしなければいけないのですか。

○竹内元章氏

まちづくりをなぜしなければいけないかという、商店が少なくなっている、住民が少なくなっている、コミュニティがどんどんなくなっているこのJR半田駅前地区ですが、それをここで食い止めよう。

○加藤まり氏

何の為に食い止めるのですか。

○竹内元章氏

なくしてもいいですか。このままだと無くなりますよ。

○加藤まり氏

無くなって困るのは何かと言ったら将来の子どもたちの為。子どもたちの将来の為ですよね。私は子どもたちの将来の為に活動しています。そこをもう少しうたったらどうでしょうか。面倒くさいことをするくらいなら別になくなっていいと思っている人いると思います。

○新美保博委員

せっかく大人たちがここに時間を費やして集まって話をしているのに、その議論をしたら引くしかなくなってしまうから、できれば止めよう。

○中川健一副委員長

これには経緯があって、なぜ春扇楼末廣をシンボルにしてやろうということになっているかという、我々はどうやってこのまちづくりをしていったらいいかということを経験者の先生に話を聞くと、とにかく余計なことをやらずに、まず建築物を残さないと、歴史的な過去のストーリーが無くなってしまふから、まずは残す努力をすべき。電線地中化は後。と言う話で我々はこの街の歴史的な経緯を残すために春扇楼末廣を1点突破でやらないといけないのではないかと、ということでここに辿り着いています。だから、ハードを残したいというだけでやっているのではなく、まずそこがとっかかりでやっていこうということでここまで来ている。ちょっと行き違いがあるかなと思いますが、必ずしも子育てや教育をやりたくないとか、ないがしろにしている訳ではないです。

○岩田玲子委員

JR半田駅前には半田市の顔でもあるから、まずこの地域を盛り立てていきたいというのが半田市民として考えた。それが発端です。ここが半田の顔なんだという思いがあって、住民の人に働きかけたというものです。

○加藤まり氏

私にもそういう思いを持って、ここで活動をしたいから、末廣さんをお借りしてたくさんの方に末廣さんを知ってもらいたいと思って活動をしています。それで、本当に残念なことに、住民がそう思っていないので、私は住民の人たちがそういう風に思えるようにしてほしいです。ここにいる人たちと同じ気持ちに住民の人たちもなるように。全員が全員同じようには無理ですが。

○柴田哲治氏

逆に加藤さんに質問ですが、アンケートの項目の話なのか、この委員会全体の方向性として、住民の意見をもっと掘り下げていきたいのか、どちらを話していますか。

住民や、通勤者などその人たちの意見を聞くこと、当然必要だと思うし、大きな方向性、先ほど私が申し上げたように1つずつの成功例とか、例えばここを借りてイベントを重ねる、参加できる場づくり。そうすると参加した人からもっと具体的な意見がでてくるという段階をとることも必要だと思います。アンケートでできるかでないかもわからない。けれども形を見せる、動きを見せることによって、イベントをずっとやっているとどうしたら参加できるのか、となつて、ここが窓口なんだよということをしていかなければ、この会議をしていることもほとんど住民の人は知らないし、やはり顔、活動を見せていくことで、意見が出やすい、顔もお互い見えてくる。子育てする人たちの心配事もでてくる。よその事例を持ってこないとね、ということもあると思います。まずスタートしていかなければいけない部分はスタートしていく、そこからまた意見も参加者も増えてくる気がしますので、アンケートが全てではないと思います。聞く姿勢の第1歩であつて、第2段のアンケートや座談会を開くとか、おでかけで子育ての中心の方だけを、発言しやすいテーブルを作るとか、ということも手法としてはやっていかなければならない。アンケートが決してすべてではない気がします。後は活動を見せて、あの人たちが集まっている所へどうやったら声をかけられると、定期的にやっているからおいでよ、とか僕らから行くよということの方がうまくいく気がします。

○中川健一副委員長

私の意見は、地元の方たちがどう考えるかが一番大切ですので、我々議会も役所もそうですが、話をみなさんでしていただいて、決まったことでいいのかなと。

○加藤まり氏

今の柴田さんの説明はすごくよく分かるし、反省です。そういう流れで行けるのであればいいと思います。ただ、今まで私もイベントをやってきて、蔵のまちのイベント、商店街のイベントとかやってきているけれども、本当に地元の人来ないです。うちのマンションの人全然来ないです。中区はJUS率が高いという話がでていましたが、今までのようにしていても結局変わらないと思います。

○柴田哲治氏

こういう話になりましたが、私の経験値で言うと知多半田駅前の区画整理の時に空き地がでた。ユースストアがなくなった。ランブリングタウンを作った人、朝市を日曜日に2年以上続けました。生鮮食品を買う場所がなかった。そうするとマンションの人たちも最初はおっかなびっくりだけれども出てくるようになった。そうしてベビーカーを引きながら来た人と話していると、困っていることを話してくれて、市役所につないだりしました。今ランブリングでルツボックリだとか西区と共同で盆踊りをしようとか、子ども会を復活しようということもできてきました。それは顔が見えてきたから。特にマンションに住んでいるお母さん方が一人ぼっちだったのが、地べたの上ではじまった。地元のきっかけづくりとなつたいい事例を知っています。これが形をかえたアンケート、意見集約になるのかなと思います。

○加藤まり氏

こうやって柴田さんの説明を聞くと、すごく納得しますし、賛成しますが、作業部会の提言からは伝わってこないのが心配です。せつかくこれだけの時間をかけてやっているのに他人ごとになってしまうのではないかと思います。

○柴田哲治氏

アンケートも、自分たちでこんなことをやったよというのを表に出しながら、意見に耳を傾ける第1歩。イベントするとか別の機会でまちづくりの発表をするなど、空振りするかもしれないけれども意見が出しやすいように相手に合わせて、文書が書きやすい人もいるだろうし、膝を交えて話したい人もいるだろうし、汗を流しながらがいい人もいます。続けるということでもいいのではないかと。アンケートで終わりではないし。

○新美保博委員

今柴田さんの言っていることで理解できるのなら、とりあえず第1弾で6つの中の3つということでもいいのではないかと。ここに6つなく、3つしかないのは間違いなく手落ちだと思うから、どこかで載せないといけないと思う。それとアンケートの取り方。本当に書いてくれるだろうかということ。200件の方が何も書いてくれなかったら、戸別訪問で1件1件に説明することは不可能。そんなことはやれない。

○岩田玲子委員

まりさんが言われていることもよく分かります。アンケートの1ページ目に、どんな思いでこれを行っているか、なぜこれをやりたいかという思いを始めに書くと確かにわかりやすいと思います。JR半田駅前地域まちづくり実行委員会を設立しましたというだけでは、わかりにくいと思うので、私たちはこういう思いがあるんだという文言を載せるといいのかなと思いました。

○竹内元章氏

例えばアンケートに自分のかいた6項目をそのままつけて、こういうことを考えてやりま、ということを書く。

○岩田玲子委員

半田の顔としてJR半田駅前をなんとかしたいという文言を入れた方がいいと思います。

○中川健一副委員長

変えた方がいいということだったら、変えたほうがいいと思いますし、このままやっ、こうということであれば進めてやってみた方がいいと思います。

○加藤まり氏

柴田さんの言うように、直接顔を合わせて話をすればつながっていくと思います。そのきっかけになればと思います。

○中川健一副委員長

僕の個人的な意見は、自分たちで説明しないとどれだけ文章を書いても人それぞれ受取かたは違いますので。

○加藤まり氏

新美さんの言われるように1件1件説明するのは難しいと思いますが。

○新美保博委員

また来週とりにくるから、答えておいてね、で済むならいいが、そういう話ではない。

○中川健一副委員長

まちづくりのプランのこととアンケートは分けてきちんと考えればいいと思いますが、まちづくりプランの発した疑問があったと思いますので、もしもそれが解消できるということであれば、当初案通りにアンケートをやったほうがいいのかなど。やはり動き出さないことにはどれだけ文書でやっても、柴田さんがおっしゃったようにやりだして、周りの人がそれを見て初めて動き出すというのが本当の答えじゃないかなと思います。ちょっと相談していただいて決めてくだされば、それで我々もお手伝いさせていただきたいと思います。

○内田哲也氏

話が違うかもしれませんが、1, 2, 3の順番ですが、最初にこの街特有の資源・文化を活かすを持ってきて、その次に来街者の満足度を高める対応、その結果として街並みを形成とした方が、流れとしてスムーズではないですか。

○竹内元章氏

1, 2, 3ではなく、●にしましょうか。

○内田哲治氏

今ある末廣さんなどがイメージとして浮かびますので、自分の意見もでると思いますが、街並み形成とういうと何を書いていいかわかりにくいと思います。そういう順番ですと書きやすいと思います。

○新美保博委員

第1歩だと思います。見返しても本当になつかしき半田のまちなみをJR半田駅前を取り戻すという思いはある。しかしそれは勝手な思いであって、みんなもそう思っていたらいいなとは思いますが、200世帯を代表する意見ではない。だから、このまちがこのままでいいのか、ということを確認するアンケートじゃないのか。とっかかりにしておいた方がいいのではないのか。何かやっても参加してもらえない、事件が起きても助けてもくれないまちでもいいの、と問いかけた時に、それではいけないよなど、何とかしたいというみんなの思いがなければまちづくりはできないと思う。半田市議会としては半田市全体をやるのは無理な話だから、まずここからできないかと、鉄道高架も区画整理もある中で、まちが変わってくる、今変わってくるのであれば上手な変わり方をしてもらったほうが良い、という思い。ただ地元の人たちに同じ思いがあるかどうかを知るにはこちら側がアクションしないと答えはもらえない。

○竹内元章氏

これも完璧ではないし、僕が考えている6項目でも足りないものがあるかもしれない。それがわからないから皆さんにアンケートをして、とっかかり始めていきたい。それで一人がこっちを見てくれて、二人がこっちを見てくれてちょっとでいいからこっちを見てくれる人が増えてくれたらいい、というアンケートで始めはいいと思います。完璧なアンケートはどこにも存在しないと思います。柴田さんが言うてくれたようにとっかかりで、ちょっとずつアクションをしているのを見てくれる人が増えて、このまちを変えようとしているんだなというのが分かってもらえて、じゃあ聞いてみるかと参加してみるか、友達呼んでみるかと段

階踏んでいきたいと思いますが、どうでしょうか。一つ一つを積み重ねて、いきなり半年間やってこれで完璧な答えはでていないと思います。これが足りないぞと書いてもらうのも、ありがとうございますでいいと思います。アンケートの第1歩。次はもうちょっとわかりやすくこうしてみようとやっていったらどうでしょうか。

今、浅井さんからいい意見をもらいまして、手元のアンケートは両面になっていますが、手元に鑑は残すようにしたらと思います。それで回収したアンケートを元に第2章、第3章に向けてプラスアルファしていけばいいと思いますので。

○新美保博委員

できれば6項目のせて、あともう1つ。まちをつくるのは地元の人だから一人では絶対できない。そこに住んでいる人たちがその気にならなければまちはできないので、これは共通事項だと思う。実行委員会ががんばっているからまちができると思われても大きな間違い。みんながそれなりに役割を果たしてもらいたいということをぜひ載せてほしい。

○竹内元章氏

地元のみなさんが主役ですと。みんなひとりひとりの力で100の力にしましょうと。それも踏まえながらアンケートをやりましょう。

○柴田哲治氏

鑑をかえるといいですね。今見ていたら真ん中に添付の素案について皆様の意見を承りたくと、3項目の意見を聞きたいとなっていますので、もっと総論でまちづくりの必要性があるという前文と、意見をアンケートでとりたいたいと、そして6項目で研究してきたが、最後のほうにお願いだけしておいて、なお1から3までについてはたたき台として参考にしていただき、率直な意見を賜ればということで、決してイエスカノーかでなく、実行委員会でもちょっとまとめたよというくらいの話でいいのではないかと。

○中川健一副委員長

そこは考え方の問題で、今まで議論したことに対してパブリックコメントのように作ったものですから、そうでなくて、全く議論をしていないことも入れていくということであればそれはそれでマーケティングとしてはあり得る姿だと思いますので、手法の問題だと思います。

○竹内元章氏

地元の皆さんからいろんな意見がでましたので、アンケートは練り直して、考えていきたいと思います。

○内田哲治氏

これは1件につき1枚ですか。1人につき1枚ですか。それによって年齢とか性別とかの欄をどうするかということもあると思いますが。

○竹内元章氏

今までこんなにみなさんから意見がでる会議なかったので、やる前に意見がでてよかったです。

○柴田哲治氏

たたき台があるからたたかれることであって、意見が出ているのだと思います。

○中川健一副委員長

僕が思うのは、アンケートは専門的で書き方によって戻りも全然違いますので、あまりそこはこだわらず、プランの方は、例えば女性の意見が入っておらず困るのであればきちっと煮詰めて考えた方がいいと思います。

○新美保博委員

パワーポイントは今3つだが、6つを早急に作って、200世帯を集めて発表会をやってはどうか。これをやってご意見ちょうだいの方が絶対早いと思う。

○竹内元章氏

地元説明会じゃないですけども末廣なんとかの会で説明しますよと。

○中川健一副委員長

その場で意見を書いてもらえたら早いですよね。

○新美保博委員

1回で終わるのではなく、昼の部、夜の部何回かやって意見を聞く。ディスカッションすればいい。そんなことできるか、とかこんなこともできないのかなど、そういうのもありだと思う。生の声が聞ける。

ただ、出てきてくれるかがポイントだよ。

○柴田哲治氏

議会や市長が最近出前でやりますが、その時にどれくらい凝縮された意見がでてきて、前段は説明側と意見側に着席となると思いますが、どれくらい生の声がでるだろうか。

○小出義一委員

課題があって、意識のある方からは意見がでてきますよね。これだけ地元のことで密着したことであれば、他人事ではないので、確率はもっと高いと思います。

○竹内元章氏

例えば区長さんのお許しがでて、時間をいただければ敬老会などでも発表してもいいと思います。おじいちゃんおばあちゃんからこんなこと始めたらしいぞと言う話がでて、それが広がっていけばいいのかなと思います。一つ一つやっていって、次はPTAでやってもいいと思うし。要望があればそれに耳を傾けていく。そういう形でやっていきましょう。

今、作業部会でここまでやってきましたが、ここまではこれでいいか承認をいただけますか。

○新美保博委員

1, 2, 3はこれでということで。たまたま4, 5, 6が無かったからこういう問題になった。

○竹内元章氏

続きますよということ。細かい説明は敬老会なり、地域のみなさんが集まる所なり、その場へ行って、10分15分時間をもってみなさんから意見を聞かせてくださいと、距離感のない身近な委員会として、住民の方にも寄り添っていることが分かるようにして今後も進めていきたいと思っています。委員長として6項目出せば良かったのですが、時間が無く、半分しか出せませんでした。それをお許しいただいて、この内容でいけと言っていただけ

ばとっかかりとしてこの内容を進めていく、決まりではありません。とっかかりとして進めていくということでしょうか。

【拍手あり】

○竹内元章氏

それでは先ほど加藤さんや区長さんから議員のみなさんから意見をいただいたことを、耳を傾けて吸収して今後アンケートなり説明会なり、残りの3項目糧にして話を進めていきたいと思えます。ふがない委員長ですが、皆さんついてきていただいて、今後メンバーを増やしながら、理解をしてくれる人が増えてJR半田駅前地域がよくなるようにがんばりますのでご協力をお願いします。ありがとうございました。

4. 今後の取り組み、アンケート、市議会建設産業委員会の提案

○中川健一副委員長

【プランの承認を確認】

【アンケートの議論が済んだこと確認】

【9月30日に市議会建設産業委員会報告があるが、アンケートを実施しないことで内容を検討することを報告】

5. 副委員長挨拶

○榊原伸行委員長

【閉会挨拶】

閉会 午後9時00分